

スポーツの成長産業化を目指します！

令和6年度 第2回

しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議

日時：1/31（金）13時30分～ 場所：県庁別館9階特別第二会議室

目次

1. しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議の目的	3
2. 第2回議事次第	5
3. 第1回会議の振り返り	7
4. 議論の検討資料	9
5. 議論していただきたいポイント	23
6. 参考資料	25

1.しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議の目的

第2回目では「KPIの設定に向けた方向性」及び「具体的な取組内容」について議論し、その内容の合意形成を図る

<p>趣旨</p>	<p>国では、「日本再興戦略2016」において、スポーツ産業の市場規模を2015年の5.5兆円から2025年までに15兆円へ拡大することを掲げ、スポーツの成長産業化を推進する施策を実施している。静岡県においても、多くのプロスポーツチームが本拠地を有するとともに、ものづくり産業を中心とした企業の集積が進み、スポーツの成長産業化に向けた条件が整っている。</p> <p>スポーツ産業は様々な分野と関連があることから、市町、民間企業、競技団体およびスポーツチーム等の関係者の意見を踏まえつつ、連携していくことが重要である。</p> <p>静岡県におけるスポーツ産業の市場規模を効果的かつ効率的に拡大させるため、スポーツの成長産業化に向けた施策の方向性や道筋を検討する有識者会議（以下、「会議」という）を開催し、会議の意見を反映させた「しずおかスポーツ産業ビジョン」を策定する。</p>
<p>本会議の位置付け</p>	<p>本会議は、静岡県スポーツ推進計画において基本方針に掲げる「地域特性を活かしたスポーツによる地域と経済の活性化」のうち「経済の活性化」に関する検討を行う。</p>
<p>検討事項</p>	<p>本会議では、以下大きく2つのテーマに沿って議論・検討を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. KPIの設定に向けた方向性 2. 具体的な取組内容
<p>開催予定</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 22%;"> <p style="background-color: #FFD700; padding: 5px; text-align: center;">第1回：R6.12.5</p> <ul style="list-style-type: none"> • スポーツ産業における国の指針、県内状況の共有 • 10年後に目指すべき姿 • 施策の方向性 </div> <div style="width: 22%; border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p style="background-color: #FFD700; padding: 5px; text-align: center;">第2回：R7.1.31</p> <ul style="list-style-type: none"> • KPIの設定に向けた方向性 • 具体的な取組内容 </div> <div style="width: 22%;"> <p style="background-color: #FFD700; padding: 5px; text-align: center;">第3回：R7.3月頃</p> <p style="font-size: small; margin-bottom: 5px;">＜ビジョン素案決定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> • スポーツの成長産業化に向けたKPI設定、具体的施策の決定 </div> <div style="width: 22%; display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; font-size: small; margin-right: 5px;">パブリックコメント</div> <div style="width: 20px;"></div> <div style="width: 22%;"> <p style="background-color: #FFD700; padding: 5px; text-align: center;">第4回：R7.7月頃</p> <ul style="list-style-type: none"> • パブリックコメントを踏まえ、最終版を策定 </div> </div> </div>

2.第2回議事次第

第2回しずおか産業ビジョン策定検討会議の概要

第2回有識者会議

日程	<ul style="list-style-type: none"> 2025年1月31日（金） 13時30分～15時30分
場所	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県庁 別館9階特別第二会議室 オンライン（ZOOM）
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 本会議における有識者委員 静岡市・浜松市（オブザーバー） 事務局（静岡県・EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社）
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 議事次第 出席者一覧・座席表 事務局資料

議事次第

時間	プログラム	備考
3分	開会挨拶	静岡県より
3分	議長挨拶	議長より
3分	馬瓜委員挨拶	馬瓜委員より
10分	事務局より資料説明 <ul style="list-style-type: none"> 第1回会議の振り返り 前提情報の連携 議論していただきたい論点の提示 	静岡県より
95分	各会議委員発言	各会議委員より
5分	議長よりまとめ	議長より
1分	次回会議について	静岡県より

3. 第1回会議の振り返り

第1回会議では「10年後の静岡県の目指すべき姿」及び「施策の方向性」について議論 今後の論点として、市場規模の定義や、静岡県ならではの成果指標の設定等が挙がった

第1回会議のポイントは以下のとおり（事務局説明部分を除いて記載）

日時	令和6年12月5日（木） 15時30分～17時00分		会場	県庁別館9階特別第二会議室
出席者 ◎：議長	会場	村田委員◎、石黒委員、山崎委員、山谷委員、庄司委員、鈴木委員、中村委員、中山委員、浜浦委員、馬瀬委員、松永委員		
	オンライン	山室委員	欠席	馬瓜委員
自由 討議の 主な ポイント	10年後の静岡県の目指すべき姿・方向性 <ul style="list-style-type: none"> 静岡県の特性を踏まえ、スポーツを通じて県内産業等との横串を刺していくことが重要 スポーツ産業の定義を明確化し、県としての市場規模について現状把握を行った上でKPIを設定する必要がある。 静岡県ならではの指標を設定できると良い。 “みる”スポーツをプロフィットセンターとし、好循環を生み出していく必要がある。 			
	施策の方向性について（“みる”、“みる・する”共通、“する”、“支える”スポーツ） <ul style="list-style-type: none"> 県としてのグランドデザインを描き、各チームの自助努力だけでなく企業や自治体を含め、施設運営などの役割分担を行うべき。 地元ファンの増加にとどまらない交流機会の創出に発展することができると良い。 地域性を踏まえた資源配分の考慮が必要。 市民がスポーツを楽しめる場所づくりとスポーツチームの集積地となるインフラ整備が重要。 企業の投資を呼び込むために行政がそのきっかけを作る必要がある。また、スポーツに縁のない企業が接点を持ち、新たな産業開発の可能性に繋げるべき。 アスリートのセカンドキャリアについて、その重要性を認識し取組を継続する必要がある。 スポーツ教育・部活動の地域移行の観点で、県内のユースチームの練習をパッケージ化する等、参加競技に選択肢があり自由に体験できる仕組みづくりを行うことができると良い。 			

静岡県の目指すべき姿

- 「みる」スポーツと地域スポーツの好循環（国の指針）
 - プロスポーツチームの魅力向上と収益拡大を推進し、その成果を地域スポーツに還元することで**スポーツ産業の持続的発展に向けた好循環を創出**する
- 地域資源を活かした新しい価値の提供（本県の特性）
 - 県内の様々なスポーツ資源を活用し、他の地域では味わうことのできない特別な体験等、**新たなスポーツの価値を提供**する
- 産業との融合（本県の特性）
 - スポーツを核として、人・モノ・投資を呼び込み、官民が連携して**ものづくり産業や第3次産業との融合を推進**する

施策の方向性

区分	柱
“みる” スポーツ	①プロスポーツチームとの連携 ②スタジアム・アリーナ改革への対応
“みる・する” 共通	③スポーツツーリズムの拡大 ④県内産業との融合による新規事業創出
“する” スポーツ	⑤地域スポーツの環境整備 ⑥スポーツによるWell-Beingの向上
スポーツを “支える”	⑦アスリートのセカンドキャリア支援 ⑧スポーツビジネス人材の育成

POINT
第2回会議に向けて

- ・ **スポーツ産業の市場規模の定義に関して共通理解を得る**
- ・ **静岡県ならではの成果指標の設定**
- ・ **根拠となるデータの整理**

4 . 議論の検討資料

各委員からの意見を踏まえ、目指すべき方向性を以下の5項目に整理

<p>施策1</p>	<p>“みる”スポーツ拡大による地域への好循環</p> <p>プロスポーツとの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> “みる”スポーツの拡大による効果の地域スポーツへの還元 プロスポーツチームの経営力強化 ファンやスポンサー同士の交流機会の創出 官民が連携したスポーツ施設の管理運営・整備
<p>施策2</p>	<p>県内産業との融合による新たなビジネス創出</p> <p>県内産業とスポーツ分野の共創事業展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> スポーツと他産業を結び付けるためのきっかけづくり 県内のスポーツ資源（ヒト、モノ、コト）を活用した新たな価値の創出 これまでスポーツと関連がなかった企業のスポーツ関連事業への参入促進 スポーツを通じた新たなビジネス展開による産業開発
<p>施策3</p>	<p>地域資源を活用した県外からの人の呼び込み</p> <p>スポーツツーリズムの拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県が誇る自然を活かしたアウトドアスポーツの推進 アウエイツーリズムで訪れた人に対する付加価値の提供 宿泊数を増やすための仕掛けづくり（車中泊含む） スポーツ合宿を行う拠点整備 アクティビティ消費の拡大 スポーツツーリズムを担う、スポーツコミッションの体制強化（自主財源確保）
<p>施策4</p>	<p>地域スポーツの振興</p> <p>部活動の地域展開への対応 県民の健康づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が希望する競技に取り組める、持続可能な仕組みづくり 全ての世代に向けた健康づくりの促進
<p>施策5</p>	<p>スポーツを支える人材育成</p> <p>スポーツビジネス人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> アスリートが持つ能力を引退後も発揮できる仕組みづくり スポーツチーム・県内事業者と連携した、アスリートのセカンドキャリア支援体制の構築

「スポーツ・コネクティッド・ワールド」の実現

○スポーツ関連ビジネスが根付き、産業の新機軸として経済が活性化されている地域

○スポーツを核として、様々な主体が融合し、常に新たなイノベーションが創出される地域

○ビジネスにより生み出された収益が地域に還元され、持続的なスポーツ環境が確保された地域

○スポーツを支える様々な人材が地域において育成され、スポーツにより夢を描くことのできる地域

10年後の静岡県の目指すべき姿「スポーツ・コネクティッド・フィールド」を実現するため、5つの施策を重層的に実施

10年後の静岡県の目指すべき姿：「スポーツ・コネクティッド・フィールド」

<施策3>
地域資源を活用した
県外からの人の呼び込み

<施策1>
“みる”スポーツの拡大を通じた
地域への好循環の創出

<施策2>
県内産業とスポーツ分野の
共創事業展開

<施策5>
スポーツを支える人材育成

<施策4>
地域スポーツの振興

スポーツの
成長産業化による
好循環の実現



日本国外
静岡県外
県内



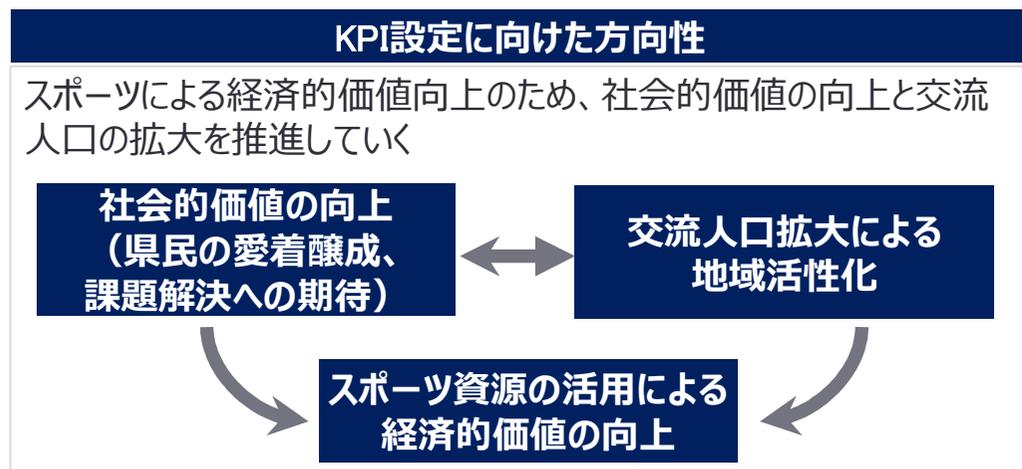
国の指針及び本県の特性を踏まえ目指すべき姿を設定 「スポーツ資源の活用による経済的価値の向上」を目標としたKPIを設定する

静岡県の目指すべき姿

- 「みる」スポーツと地域スポーツの好循環（国の指針）
 - プロスポーツチームの魅力向上と収益拡大を推進し、その成果を地域スポーツに還元することで**スポーツ産業の持続的発展に向けた好循環を創出**する
- 地域資源を活かした新しい価値の提供（本県の特性）
 - 県内の様々なスポーツ資源を活用し、他の地域では味わうことのできない特別な体験等、**新たなスポーツの価値を提供**する
- 産業との融合（本県の特性）
 - スポーツを核として、人・モノ・投資を呼び込み、官民が連携して**ものづくり産業や第3次産業との融合を推進**する

施策の方向性		
区分	施策	柱
“みる”スポーツ	施策1	①プロスポーツチームとの連携
		②スタジアム・アリーナ改革への対応
“みる・する”共通	施策2	③県内産業との融合による新規事業創出
	施策3	④スポーツツーリズムの拡大
“する”スポーツ	施策4	⑤地域スポーツの環境整備
		⑥スポーツによるWell-Beingの向上
スポーツを“支える”	施策5	⑦アスリートのセカンドキャリア支援
		⑧スポーツビジネス人材の育成

「スポーツ・コネクティッド・フィールド」達成に向けた10年後の目標値をKPIとして設定



具体的な取組内容	
“みる”スポーツ	ファンエンゲージメント拡大、スタジアム・アリーナを核としたまちづくりの促進
“みる・する”共通	スポーツイノベーションの促進、情報発信強化、スポーツコミッションとの連携
“する”スポーツ	指導体制の充実化、地域SCの充実化、学校施設の一般開放促進
スポーツを“支える”	県内大学や民間企業との連携、プロスポーツチームにおけるビジネス実践機会の提供

市場規模の算出方法として、国レベルではスポーツ・サテライト・アカウント（SSA）の考え方に基づきマクロ経済指標を採用

国レベルでの市場規模の考え方



スポーツGDP：9.5兆円

新型コロナの影響を受け、2020年（8.8兆円）のスポーツGDPは大幅に縮小したものの、概ね新型コロナ拡大前の2019年値（9.5兆円）にまで回復している。



我が国GDP：553兆円

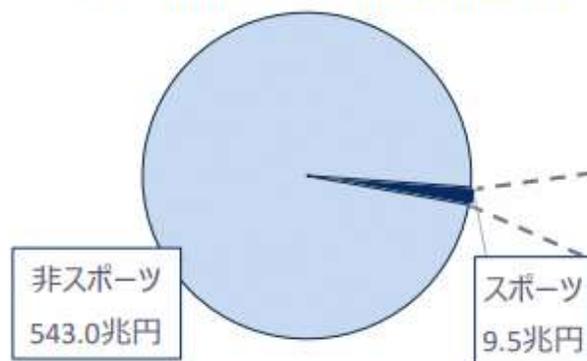
新型コロナの影響を受けて減少した我が国の名目GDPは2021年には概ね新型コロナ拡大前の水準にまで回復している。



対GDP比：1.72%

GDPに占めるスポーツGDPの割合は、統計開始以来過去最高となる1.72%を達成し、新型コロナの影響を受けた2020年以外は成長を続けている。

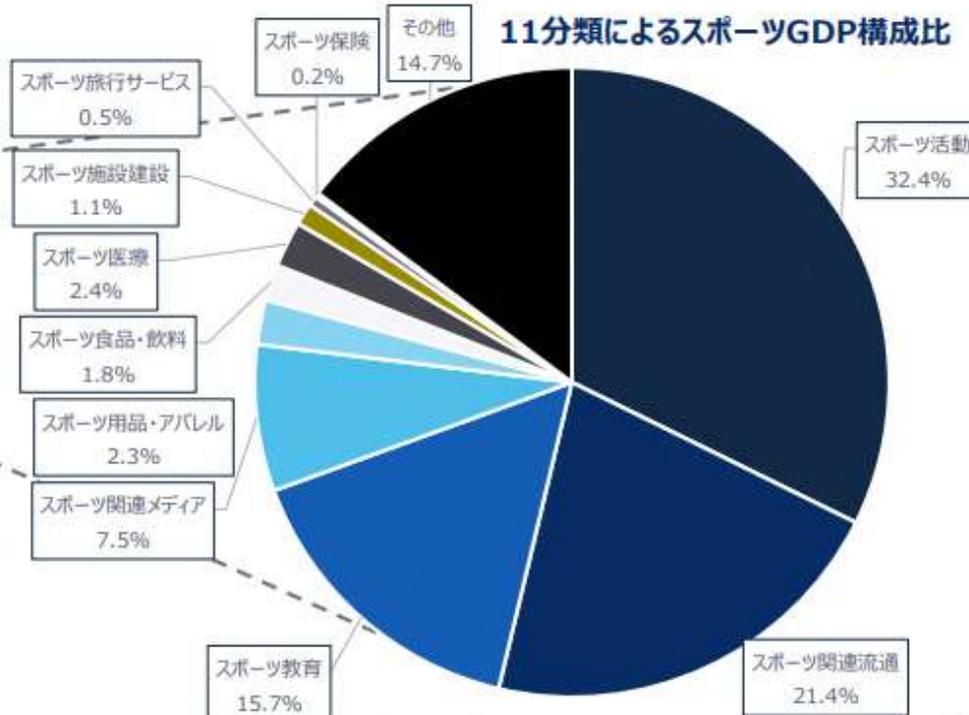
スポーツGDPが名目GDPに占める割合



スポーツGDP約9.5兆円の内訳をみると、最も大きい部門は「スポーツ活動」で約3.1兆円であり、構成割合は約32.4%であった*。また、スポーツ活動に次いで2番目に規模が大きい部門は「スポーツ関連流通」であり約2.0兆円、構成割合約21.4%、3番目は「スポーツ教育」の約1.5兆円、構成割合約15.7%となった。

*スポーツ活動の内訳はp.13参照

11分類によるスポーツGDP構成比



本県のスポーツ市場規模について、①全体額（国の考え方をベースに算出）、 ②個別額（施策分野別に県独自で算出）を算出し、それぞれの10年後目標値を設定

市場規模算出		算出方法															
区分	考え方	特徴	本ビジョンとの親和性														
国ベースを基に算出	<p>① しずおかスポーツ産業市場規模（全体額）</p> <ul style="list-style-type: none"> SSAの11分類ごとに静岡県の事業者数比率をかけ、全体額を算出 <table border="1"> <thead> <tr> <th>産業分類</th> <th>金額（2021年）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツ活動</td> <td>30,732億円</td> </tr> <tr> <td>スポーツ関連流通</td> <td>20,292億円</td> </tr> <tr> <td>⋮</td> <td>⋮</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>94,992億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>静岡県の事業者数比率 ※平均値：3%（現在算定中）</p> <p>3%と仮定した場合の試算値</p> <p>概算：約2,850億円</p>	産業分類	金額（2021年）	スポーツ活動	30,732億円	スポーツ関連流通	20,292億円	⋮	⋮	合計	94,992億円	<ul style="list-style-type: none"> グローバル基準 各国と同一基準で定点観測が可能 毎年データの更新が可能 <p>○メリット 供給側の視点で算出が比較的容易。経済全体の把握に利用</p> <p>○デメリット 施策との連動性がない</p>	<p>静岡県の独自性</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国の市場規模をベースにしているため、県の独自性は乏しい <p>施策展開しやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> マクロ経済指標のため、静岡県の施策との紐づけが困難 <p>分かりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の市場規模に静岡県の割合を乗じるというシンプルな考え方 				
	産業分類	金額（2021年）															
スポーツ活動	30,732億円																
スポーツ関連流通	20,292億円																
⋮	⋮																
合計	94,992億円																
本県独自に算出	<p>② 分野別しずおかスポーツ産業市場規模（個別額）</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策と連動させるため、施策の項目ごとに市場規模を推計 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施策</th> <th>項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">施策1</td> <td>① プロスポーツチームとの連携</td> </tr> <tr> <td>② スタジアム・アリーナ改革</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">施策2</td> <td>③ 県内産業との融合による新規事業創出</td> </tr> <tr> <td>④ スポーツツーリズムの拡大</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">施策4</td> <td>⑤ 地域スポーツの環境整備</td> </tr> <tr> <td>⑥ スポーツによるWell-Beingの向上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">施策5</td> <td>⑦ アスリートのセカンドキャリア支援</td> </tr> <tr> <td>⑧ スポーツビジネス人材の確保</td> </tr> </tbody> </table>	施策	項目	施策1	① プロスポーツチームとの連携	② スタジアム・アリーナ改革	施策2	③ 県内産業との融合による新規事業創出	④ スポーツツーリズムの拡大	施策4	⑤ 地域スポーツの環境整備	⑥ スポーツによるWell-Beingの向上	施策5	⑦ アスリートのセカンドキャリア支援	⑧ スポーツビジネス人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県内のスポーツに係る情報を活用 各項目はフェルミ推定の考え方をを用い簡易的に計算 <p>○メリット 施策と紐付いており、成果を金額ベースで把握できる</p> <p>○デメリット 他県との比較が困難</p>	<p>静岡県の独自性</p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡県の状況を反映する要素を用いて計算 <p>施策展開しやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡県のスポーツ施策の考え方と同一のため、施策との紐づけが容易 <p>分かりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの計算は簡易的である
施策	項目																
施策1	① プロスポーツチームとの連携																
	② スタジアム・アリーナ改革																
施策2	③ 県内産業との融合による新規事業創出																
	④ スポーツツーリズムの拡大																
施策4	⑤ 地域スポーツの環境整備																
	⑥ スポーツによるWell-Beingの向上																
施策5	⑦ アスリートのセカンドキャリア支援																
	⑧ スポーツビジネス人材の確保																

本県のスポーツ産業市場規模の現状及び10年後の目標

考え方

- 「スポーツ産業」の定義について、当会議では「スポーツを起点とした多様なビジネス領域」と整理
- 本県のスポーツ産業市場規模額として、国の算出を基にした「全体額」と、施策別に本県独自で算出した「個別額」を設定
- 原則として5%成長を10年間続けるものと仮定し、目標値を設定

しずおかスポーツ産業市場規模（全体額）	現状	10年後	
	約2,850億円	4,700億円	2025年度政府経済見通し 実質成長率1.2%と、スポーツGDP平均成長率約3%を足し、年5%成長と設定

分野別しずおかスポーツ産業市場規模（個別額）

<施策1> “みる”スポーツの拡大を通じた地域への好循環の創出

<p>1  プロスポーツチームとの連携 詳細16頁</p> <table border="1"> <tr><th>現状</th><th>10年後</th></tr> <tr><td>255億円</td><td>428億円</td></tr> </table> <p>マッチデー関連収入 + チケット収入以外の売上合計 + SNSフォロワーの価値</p>	現状	10年後	255億円	428億円	<p>2  スタジアム・アリーナ改革 詳細17頁</p> <table border="1"> <tr><th>現状</th><th>10年後</th></tr> <tr><td>407億円</td><td>663億円</td></tr> </table> <p>新設、改修の可能性がある施設の整備費 + 県内施設の売上</p>	現状	10年後	407億円	663億円
現状	10年後								
255億円	428億円								
現状	10年後								
407億円	663億円								

<施策3> 地域資源を活用した県外からの人の呼び込み

<p>4  スポーツツーリズムの拡大 詳細19頁</p> <table border="1"> <tr><th>現状</th><th>10年後</th></tr> <tr><td>1210億円</td><td>1971億円</td></tr> </table> <p>スポーツイベント関連支出 + アクティビティ関連支出 + 静岡県内の国内外の旅行消費</p>	現状	10年後	1210億円	1971億円
現状	10年後			
1210億円	1971億円			

<施策2> 県内産業とスポーツ分野の共創事業展開

<p>3  県内産業との融合による新たな産業創出 詳細18頁</p> <table border="1"> <tr><th>現状</th><th>10年後</th></tr> <tr><td>0円</td><td>100億円</td></tr> </table> <p>新規事業創出に伴う資金調達額</p>	現状	10年後	0円	100億円
現状	10年後			
0円	100億円			

<施策4> 地域スポーツの振興

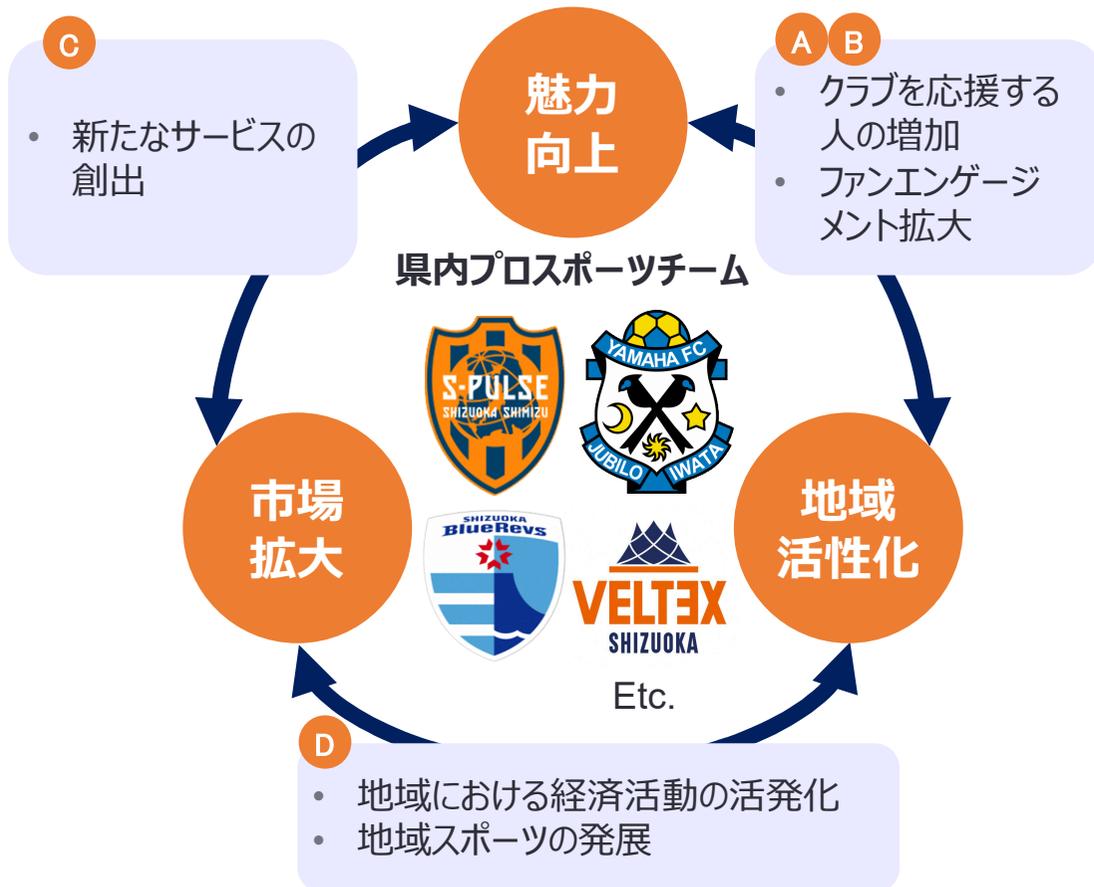
<p>5  地域スポーツの環境整備（部活動の地域展開） 詳細20頁</p> <table border="1"> <tr><th>現状</th><th>10年後</th></tr> <tr><td>61億円</td><td>99億円</td></tr> </table> <p>地域展開先での活動費 + 学校施設改修費用 + 学校部活動関連の県予算</p>	現状	10年後	61億円	99億円	<p>6  スポーツによるWell-Beingの向上 詳細21頁</p> <table border="1"> <tr><th>現状</th><th>10年後</th></tr> <tr><td>542億円</td><td>883億円</td></tr> </table> <p>県民人口 × 県民における運動実施率 × 一人当たりの活動費</p>	現状	10年後	542億円	883億円
現状	10年後								
61億円	99億円								
現状	10年後								
542億円	883億円								

<施策5> スポーツを支える人材育成 ※現時点では市場が限定的であるため、市場規模として算出が困難

<p>7  アスリートのセカンドキャリア支援 詳細22頁</p>	<p>8  スポーツビジネス人材の確保 詳細23頁</p>
--	---

1 プロスポーツチームを中心とした好循環を作るため、ファンエンゲージメントの拡大を図り、チームの収益力を強化する

プロスポーツチームに係る循環イメージ



プロスポーツチームの魅力向上により、
地域活性化、市場規模の拡大を図る

KPI及び施策（案）

KPI (案)

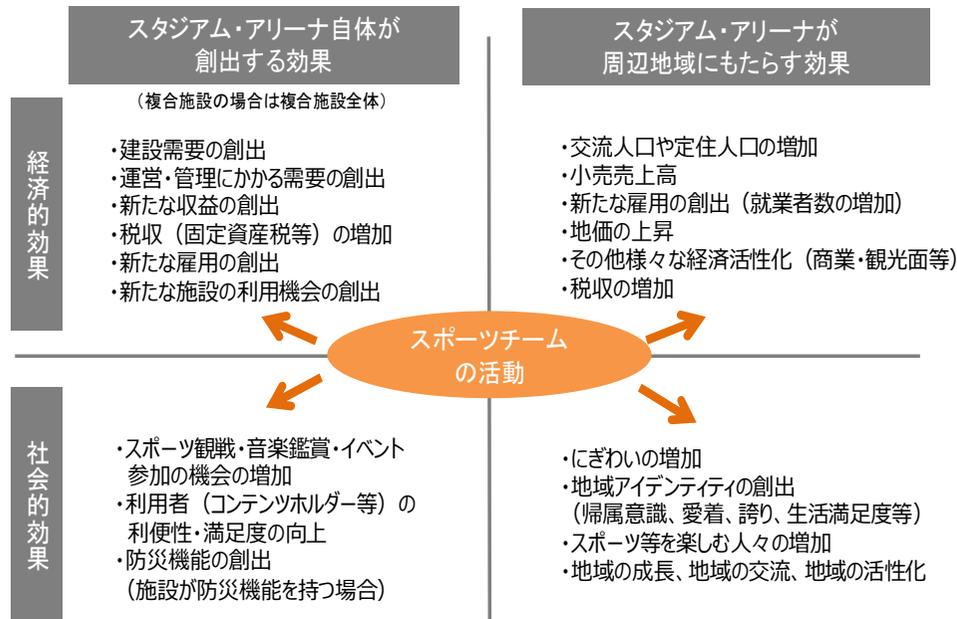
- A** 県内18クラブのSNSフォロワー数：約106万→170万人
- B** 観戦者数：約102万人→約200万人/年
- C** チーム売上：約140億円→約230億円/年
- D** ホームタウン活動のリーグからの表彰件数

施策 (案)

- | | |
|----|---|
| 県 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ・オープンイノベーションの推進 スポーツファン拡大に向けた取組 チームの経営力強化への支援 |
| 市町 | <ul style="list-style-type: none"> ホームタウン活動連携 チームとのパートナーシップの構築 |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ファンエンゲージメント拡大 スポーツホスピタリティの推進 チーム間連携による共同プロジェクト |

2 スタジアム・アリーナを中心としたまちづくりを促進・推進し、地域活性化を図る

スタジアム・アリーナに期待する地域への効果



出所：第二期スポーツ未来開拓会議（第3回） 配布資料 [資料3 事務局説明資料](#)

ES CON FIELD HOKKAIDO（北海道ボールパーク F ビレッジ）

- 札幌市中心部・新千歳空港からともに40分程度の北広島市に新設された、これまでにない観戦体験・臨場感にこだわった球場。
- 開業から1年で総来場者数は約350万人、野球観戦以外の目的でも約150万人が来訪。
- スタジアムのみならず、商業施設や宿泊施設、飲食施設、子どもの遊び場、学習施設などが整備されている。
- 今後、JR新駅新設や大学移転等も予定。
- 単なるスポーツ観戦にとどまらない、試合のない日も楽しめる行楽地から、さらに多くの人が集い、ともに夢や理想を実現していく、新たな街づくりを目指している。



出所：「みる」スポーツ分科会（第2回） 配付資料 [資料6 事務局資料（スタジアム・アリーナ）](#)

KPI及び施策（案）

KPI (案)

- A スポーツ庁「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」への選定
- B 大規模国際大会の誘致
- C 県内主要施設の稼働率
- D 県内主要施設の収益化

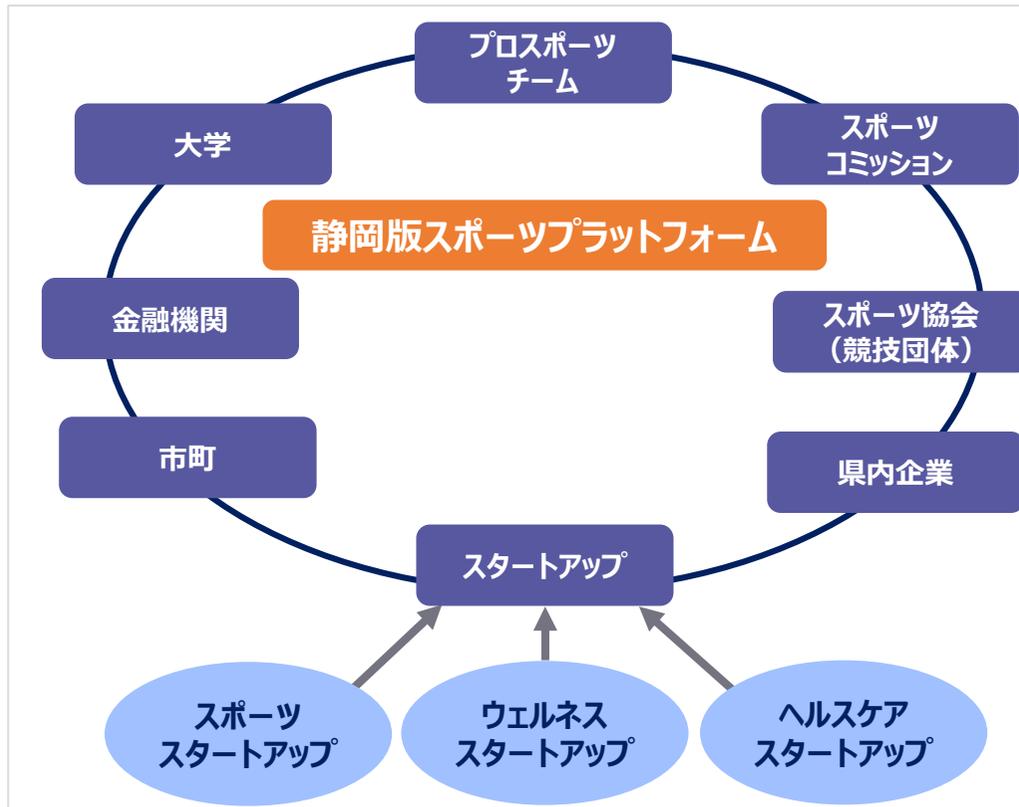
施策 (案)

- 県**
 - 県が所有するスタジアム・アリーナの改修・整備
 - 市町と連携したまちづくりの推進
 - 大規模イベントの誘致
- 市町**
 - 市町が所有するスタジアム・アリーナの改修・整備
 - 地域コミュニティとの連携
 - 地域一体となったまちづくりの推進
- 民間**
 - 資金や運営ノウハウの提供（プロフィットセンター化の実現）
 - スタジアム・アリーナの体験価値向上（プロチームによるコンテンツ提供）

3 スポーツチームを始めとする県内のスポーツ資源や県内産業との融合による新たな産業創出

オープンイノベーションによるスポーツビジネスの創出

- ・ オール静岡でスポーツの成長産業化を推進するため、スポーツに関係する多くの主体が集う、プラットフォームを構築
- ・ プラットフォームを核としたオープンイノベーションを促進
- ・ 県内のスポーツ資源（スポーツチーム・スポーツ施設等）とスタートアップを結び付け、新たなスポーツビジネスを創出



KPI及び施策（案）

KPI (案)	A	プラットフォーム参画企業・団体数 100社/団体
	B	県内拠点アーリーステージ社数 10社（累計）
	C	マッチング件数 500件（累計）
	D	新しくスポーツビジネスに取り組んだ県内企業 10社（累計）

施策 (案)	県	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツプラットフォームの構築 ・ 事務局の設置、場の提供 ・ プラットフォームでのイノベーション促進 ・ 県内大学等との連携強化 ・ 他スタートアップコンソーシアム等との連携
	市町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の提供 ・ 地域住民への理解
	民間	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツプラットフォームへの参画 ・ 人材、ノウハウの提供 ・ 施設、成長資金の提供

4 県内の豊富なスポーツ・観光資源を活かした、交流人口の拡大 富士山など有名コンテンツとスポーツの連携、宿泊数増に向けた施策の実施

県外からの誘客

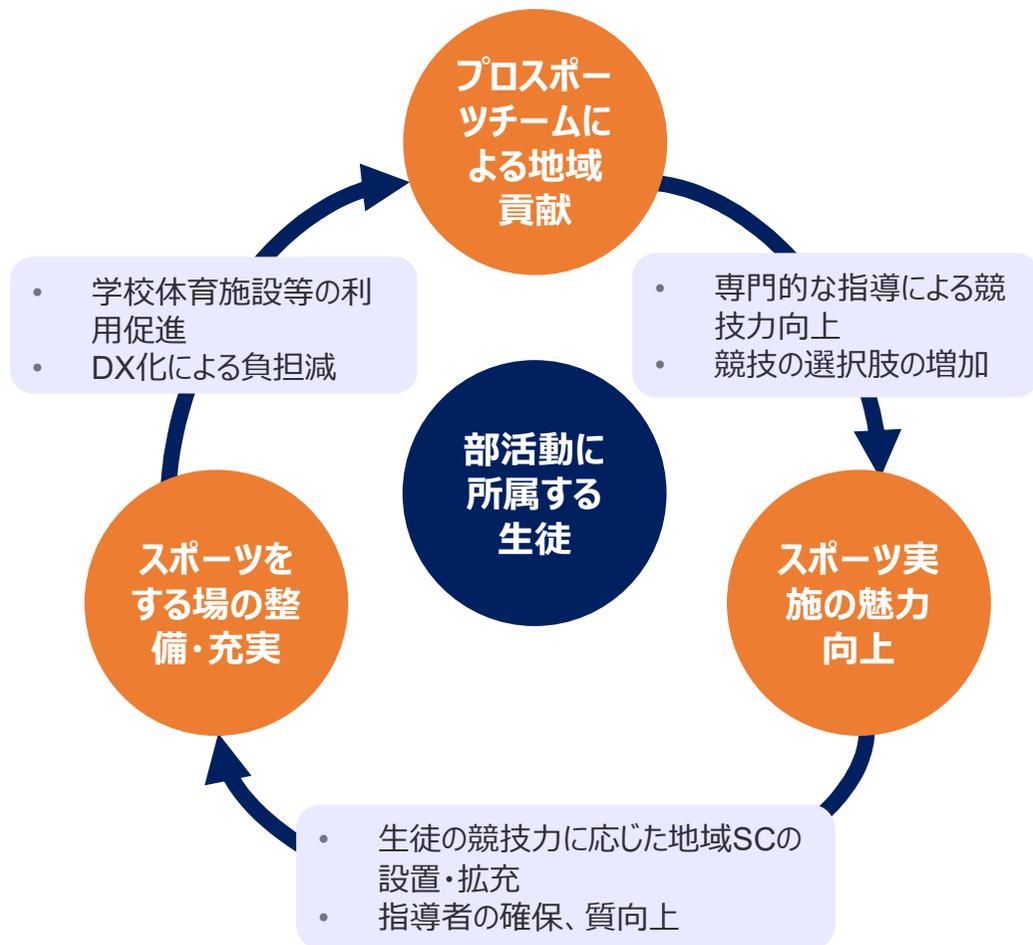
KPI及び施策（案）



KPI (案)	A	スポーツ訪県目的比率：0.4% → 1.5%
	B	県内観光客の延べ宿泊人数の増加
施策 (案)	C	体験型コンテンツの創出数
	D	デジタル観光コンテンツの充実
	県	<ul style="list-style-type: none"> スポーツツーリズムの担い手となる、スポーツコミッションの体制強化 県内スポーツツーリズム（スポーツ合宿）の魅力発信 スポーツと観光を組み合わせたコンテンツ開発
	市町	<ul style="list-style-type: none"> 回遊性を高める移動手段の充実 地域コミュニティの維持と伝統・文化発信 競技団体と連携した大会誘致・イベント実施
民間	<ul style="list-style-type: none"> 質の高いスポーツツアー・ホスピタリティの開発 付加価値の高いスポーツ合宿の提供 デジタル観光コンテンツの充実、DX化 	

5 プロスポーツチームとの連携による部活動の地域展開に向けたスポーツ環境の一体的整備

プロスポーツチームとの連携による持続可能なスポーツ環境整備



生徒・児童がやりたい競技を選択できる、持続可能なスポーツ環境を将来にわたって確保することを目指す

KPI及び施策（案）

KPI (案)	
公認指導者数※	
A	・JSP0 : 7,957人→12,000人 ・JPSA : 1,039人→1,500人
B	DXを活用した指導機会の充実
C	地域スポーツクラブ(地域SC)の加入者数の拡大
施策 (案)	
県	<ul style="list-style-type: none"> 市町の取組支援 指導者確保に向けた支援
市町	<ul style="list-style-type: none"> 地域展開に向けた受け皿づくり 学校体育施設の活用・整備 スポーツイベントの開催
民間	<ul style="list-style-type: none"> 現役選手やコーチによる指導 地域SCの設置、充実化（対象スポーツの増加、受入人数の増大）

※JSP0 : スポーツ指導者基礎資格+競技別指導者資格者数
JPSA : 初級・中級・上級の指導員数

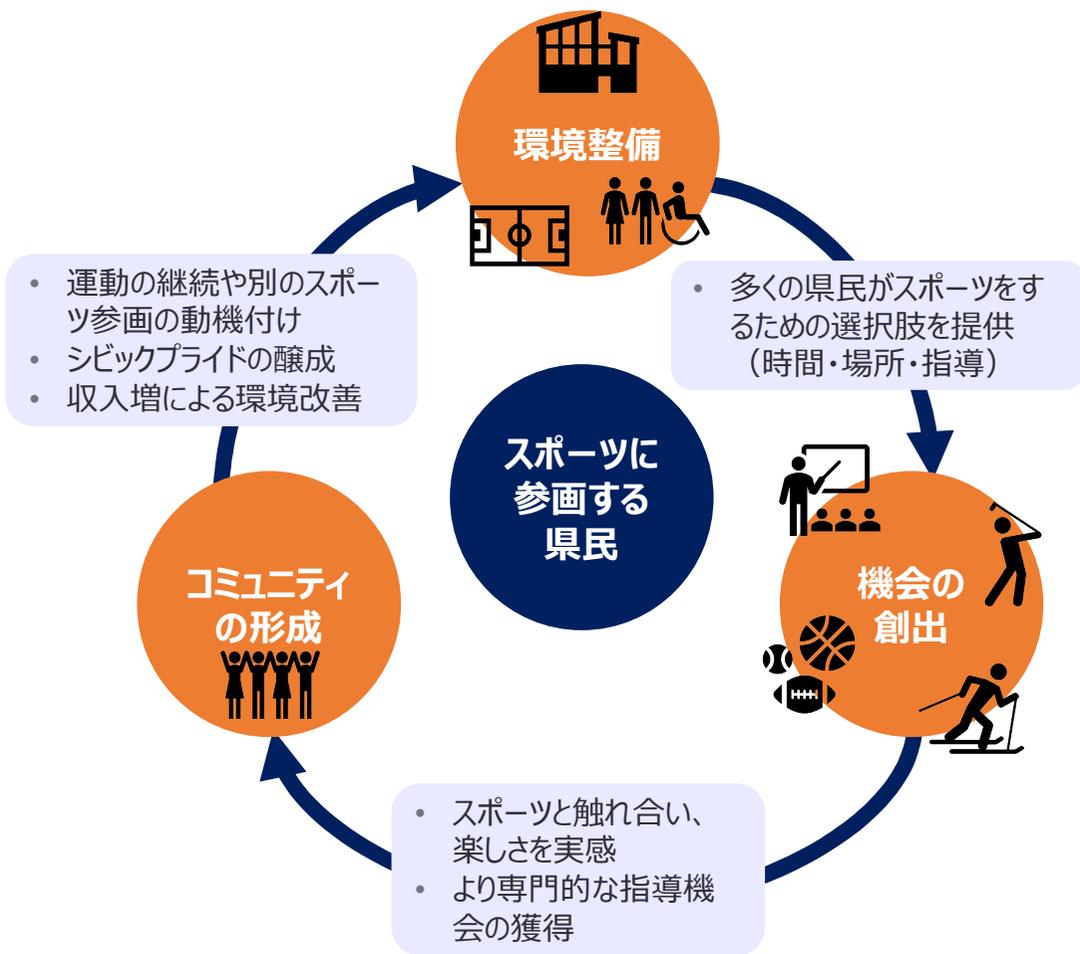
6 スポーツを通じたコミュニティ形成によるWell-beingの向上と健康寿命の延伸

【Well-Being】

身体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態

KPI及び施策（案）

運動実施率改善に向けた環境整備・構築



全世代の県民誰もが楽しめるスポーツ環境を構築し、新たなコミュニティの形成を契機に継続的な運動参加を実現

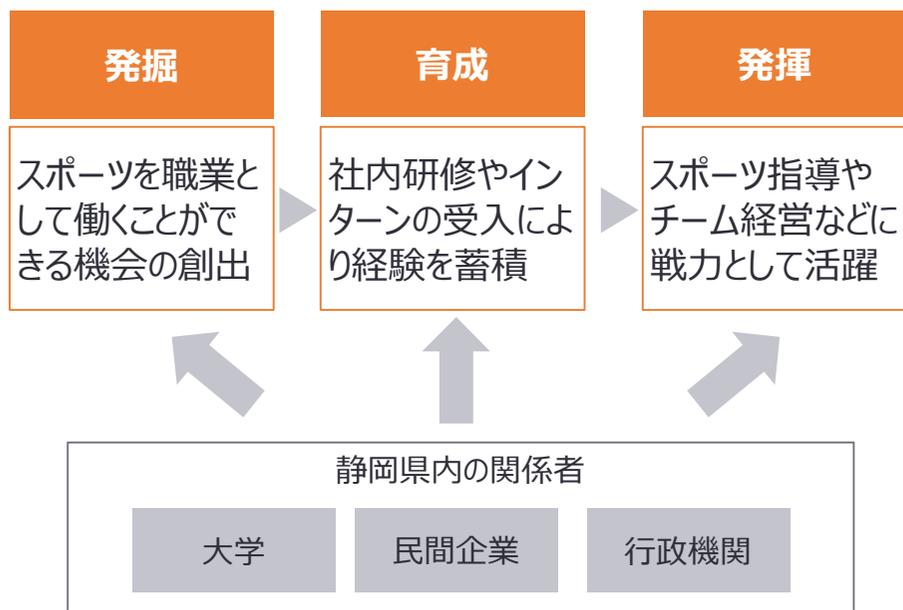
KPI (案)	A	県民幸福度の向上※1
	B	スポーツ実施率 (52.3%→70%) ※2
施策 (案)	C	マルチスポーツ参加やニュースポーツの推進
	県	<ul style="list-style-type: none"> 公共および民間スポーツ施設に関する実態把握 スポーツ施設のユニバーサルデザイン化推進 スポーツによる健康増進効果のデータを踏まえた健康づくりプログラムの研究・開発
	市町	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の一般開放促進 (安全性、利用に係るシステム化、地域の防災拠点化) 地域SCなどを活用したイベントの企画
民間	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを通じたコミュニティ形成のための仕組みの構築 指導者として生計を立てられるためのモデルの構築 	

※1 県の次期総合計画における幸福度指標と整合をとる

※2 2023年度時点

7 8 支える人材の活用を通じて「する」「みる」スポーツの拡大に貢献

アスリートやスポーツビジネス人材活躍の段階



競技の知見が豊富なアスリートとスポーツビジネスに関する専門的な知見を有する人材それぞれが強みを活かし、県内スポーツの「する」「みる」拡大に貢献

KPI及び施策（案）

KPI (案)	A	県内でのアスリート向けキャリア研修の実施数
	B	引退後に県内企業へ就職した選手の人数
アスリートのセカンドキャリア支援	県	<ul style="list-style-type: none"> アスリートのキャリア形成に対する意識啓発 官民が連携した、アスリートのキャリア支援スキームの構築（雇用の創出）
	市町	<ul style="list-style-type: none"> 指導者としての就業支援
	民間	<ul style="list-style-type: none"> アスリート雇用の促進 プロチーム等企業内のキャリア教育支援
スポーツビジネス人材の育成	県	<ul style="list-style-type: none"> 県内大学や民間企業への出張講座の実施 スポーツビジネスに係る起業支援
	市町	<ul style="list-style-type: none"> 地域SCでの実践機会の提供 地域イベントに係る経験機会の創出
	民間	<ul style="list-style-type: none"> プロスポーツチームでの実践機会提供 社内でのスポーツビジネス研修機会提供 スポンサーによるスポーツチームへの人材派遣

5. 議論していただきたいポイント

「しずおかスポーツ産業ビジョン」の検討にあたって本日議論していただきたいポイント

1

KPIの設定に向けた方向性 ・具体的な取組内容

- 目指すべき姿となるためには、どのような指標を目標として設定すればいいか
- 目標を達成するためにはどのような取組が必要か
- 官民がそれぞれ、またはともに講じるべき施策の方向性

本日議論

2

〈ビジョン素案決定〉 スポーツの成長産業化 に向けたKPI設定、 具体的施策の決定

- 「しずおかスポーツ産業ビジョン」に掲載する内容として、KPIや具体的施策がふさわしいか

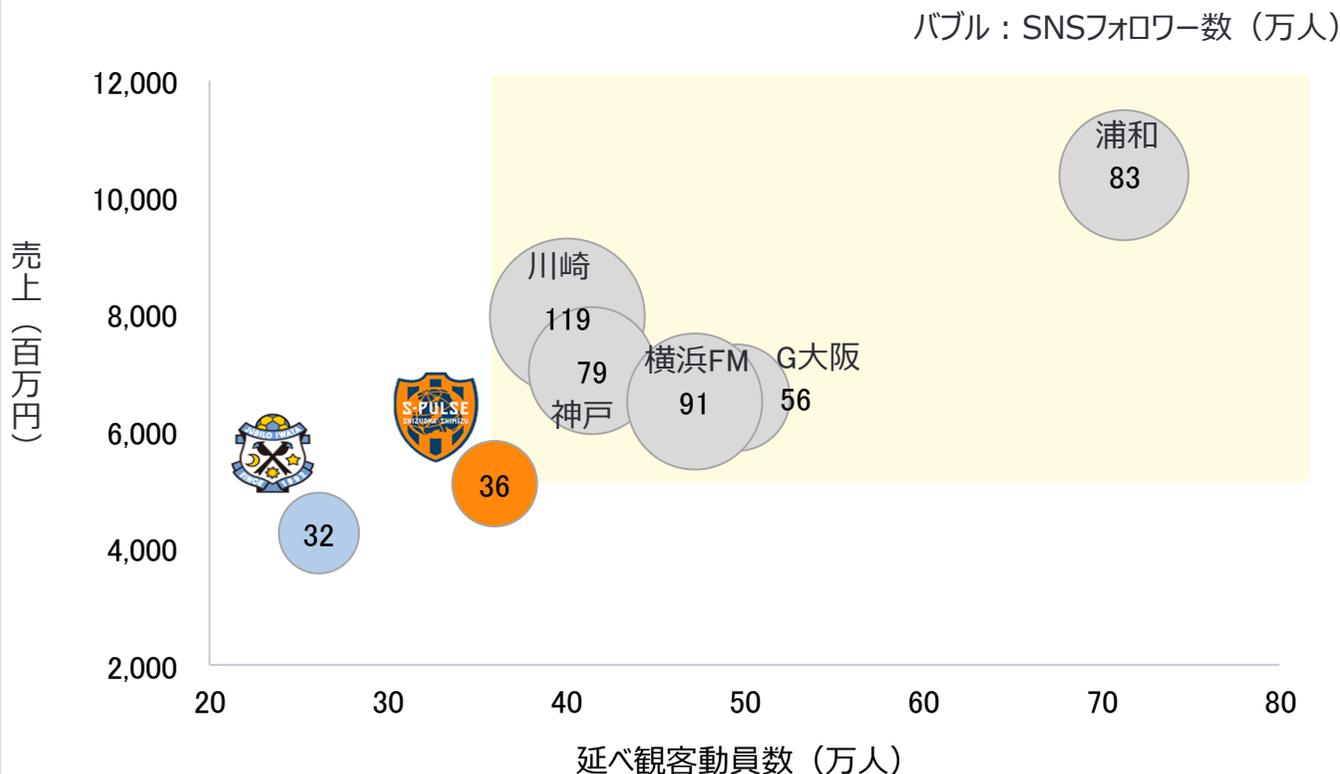
次回議論

6. 參考資料

- ① Jリーグクラブにおいて、売上上位クラブは観客動員数及びSNSフォロワー数が多い
- ② また、県内クラブのスタジアム収容率は他クラブと比較しても高い

①プロスポーツチームとの連携

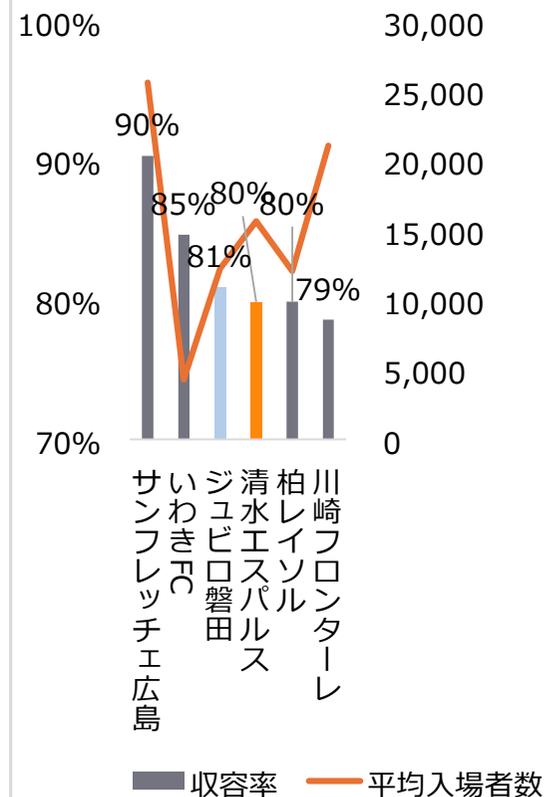
【Jリーグ】売上上位5クラブと県内2クラブの売上、観客動員数、SNSフォロワー数比較



売上が高いクラブは、総じて延べ観客動員数とSNSフォロワー数が多い

②スタジアム・アリーナ改革

【Jリーグ】収容率上位クラブ



県内クラブは他クラブと比較してスタジアム収容率が高い

※①出所：売上は2023年度、観客動員数は2024年度Jリーグ観客数合計、SNSフォロワー数は各クラブのFacebook・Instagram・X・Youtube・TikTokの合計からEY作成

※②出所：Jリーグ2024年公表資料よりEY作成。ジュビロ磐田はエコパを除く、清水エスパルスは国立を除く数値

3 自治体におけるベンチャー支援の状況

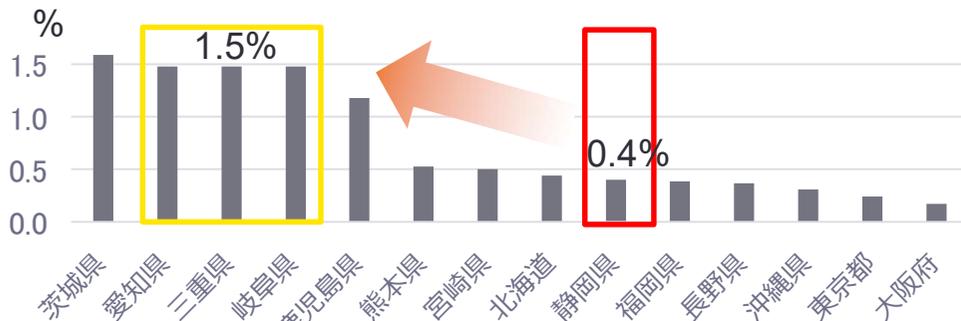
自治体で独自の支援が進んでいる。属人化もあるため体制構築は必須

	特徴的な支援内容	支援先
<p>愛知県 スタートアップ 推進課 STATION Ai 株式会社</p>	<p>越境の最大地点へ。 STATION Ai</p> <ul style="list-style-type: none"> スタートアップ支援・事業創出支援事業 施設整備・運営事業 ファンド運営事業 <p>地上7階建、延面積23,000㎡をほこる 日本最大級の支援拠点。500社を超えるスタートアップとパートナー企業が集まっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> OptFit Liberaware SQUEEZE Spacewasp ヘラルボニー
<p>浜松市 産業部 スタートアップ 推進課</p>	<p>浜松市ベンチャー企業進出・成長応援サイト HAMACT!!</p> <ul style="list-style-type: none"> 市の認定VC・金融機関が出資・融資する市内ベンチャーに、最大4000万円の事業費を交付 浜松市企業とスタートアップ企業のマッチングプラットフォーム 実証実験サポート事業 	<ul style="list-style-type: none"> GREEN CHARGE Magic Shields WeWill リンクウィズ MetCom
<p>神戸市 経済観光局 新産業創造課</p>	<p>Life-Tech KOBE KOBE STARTUP ECOSYSTEM</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金調達、拠点、人材育成、マッチング エンジニア創出事業や起業家創出事業 スタートアップのモデルケースの提示 医療などライフサイエンス分野 AIに特化した支援 	<ul style="list-style-type: none"> シンプロジエン バックス・バイオイノベーション At FOREST Godot Holoway

静岡県へスポーツを主目的とした観光客の割合は他県と比べて低く、伸びしろが大きい 国内観光客の平均宿泊日数も全国平均に比べ少なく、宿泊日数の増加に向けた取組が必要

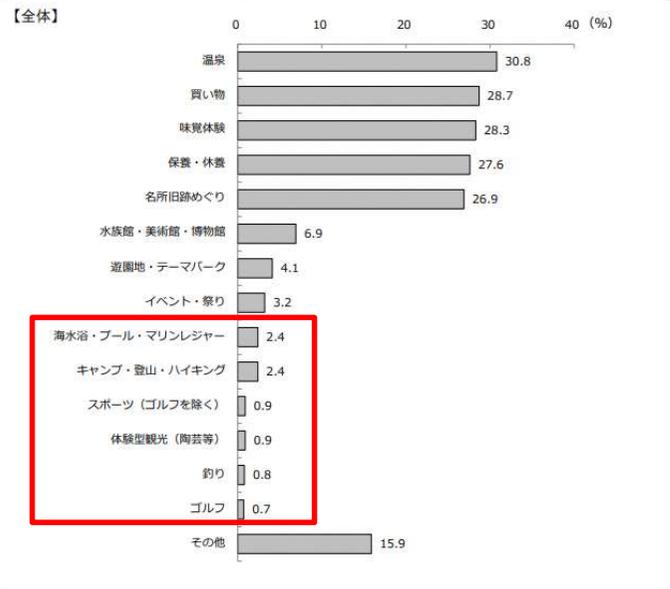
④ 旅行客の静岡県への旅行目的

- 静岡県と他県の観光におけるスポーツを主目的とした比率の比較



出典：訪日外国人消費動向調査2023年（観光庁）

14 旅行中に体験したレジャー活動



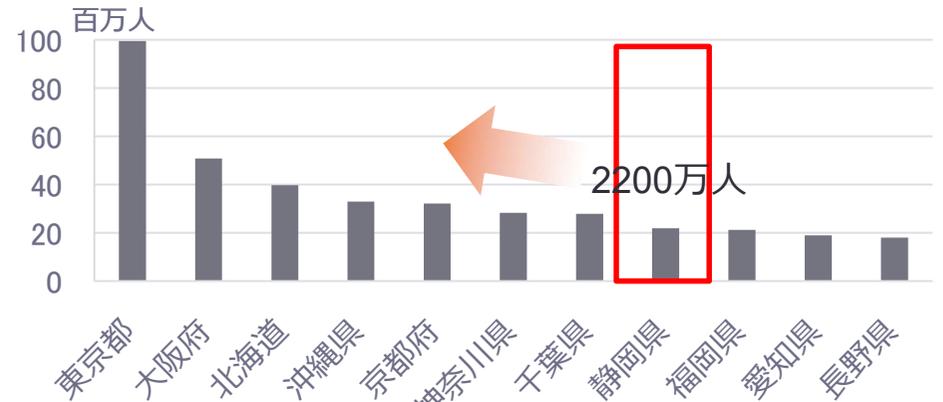
出典：令和5年度 静岡県における観光の流動実態と満足度調査 報告書

- 静岡県内におけるレジャー活動においてもスポーツ・スポーツ観戦関連（海水浴、プール、マリッジジャー、スポーツ）の体験比率は低い

④ 国内の静岡県宿泊者数の比較

- 静岡県と他県との延べ宿泊者数の比較

2023年 延べ宿泊者数は全国8位で約2200万人あるものの、平均宿泊日数が全国平均より0.85日少ない。



出典：宿泊旅行統計調査 2023年集計結果（観光庁）

<平均宿泊日数> (表 3-8)

区分	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全国平均	2.35日	2.19日	2.31日	2.21日	2.26日	2.42日
区分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
静岡県	1.46日	1.39日	1.38日	1.37日	1.32日	1.57日

出典：旅行・観光消費動向調査（観光庁）

静岡県における観光の流動実態と満足度調査（静岡県）

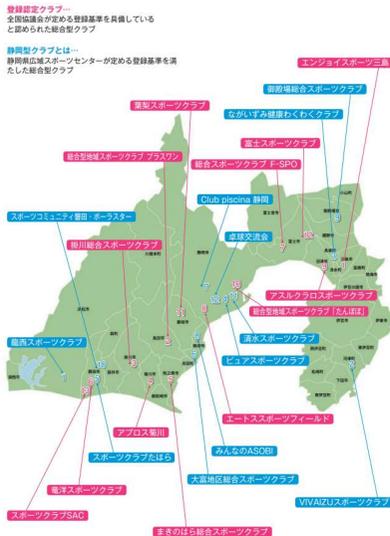
5 地域SCの設置については、設置地域に偏りがあることが課題。運動実施率の改善に向けて、
6 各世代に対する個別のアプローチにより、健康寿命延伸へと繋げていく。

⑤ 地域スポーツの環境整備

・ 静岡県と近隣県の地域SC設置状況

	総合型地域SC数	1か所以上地域SCが設置されている自治体の割合
静岡県	25 ※1	42.9% (15/35)
神奈川県	108	93.9% (31/33)
愛知県	136 ※2	94.4% (51/54)

※1：登録認定クラブ+静岡型クラブ ※2：連絡協議会非加盟団体を含む



⑥ スポーツによるWell-beingの向上

・ スポーツ実施により健康寿命延伸が期待（笹川スポーツ財団）
 身体活動による健康維持・増進、社会との繋がりの形成・維持、
 良好な食・栄養の摂取が促進



・ スポーツ人口拡大に貢献する好事例（Sport in Life）
 小学校体育館を会場とした多世代型体力づくり事業、屋外開放空間・町内会館を会場とした地域サロン・放課後の居場所事業の展開

第3回Sport in Life アワード 大賞（最優秀賞）

プロジェクト名	地域密着型サードプレイスによる「居る・参加・地域づくり」の一体的支援事業	所在地	埼玉県本庄市本町3-3-31-106
受賞者	NPO法人クラブしっさず	URL	https://shkkyu.jimdoo.com/

1.取組の経緯
 『スポーツと福祉の融合』をテーマに、クラブしっさずは、文部科学省が策定したスポーツ基本計画にに掲げられた総合型地域スポーツクラブとして2000年にスタートしました。スポーツの「プレイ」を軸に、交流・協働的な活動、スポーツと福祉を融合したまちづくりをテーマに、みんなのあつらいの「居る」をプロデュース。あつらいは、交流を軸に多世代・多世代・多世代、市内外で様々な活動を展開し、今に至ります。

2.事業の概要と特徴
 スポーツを通じた支え合いのまちづくり
 ①小学校体育館を会場とした多世代型体力づくり事業
 ②屋外開放空間（お寺・神社・河川敷・公園等）町内会館を会場とした地域サロン・放課後の居場所事業
 どなたでも、予約なしで立ち寄ることができます。2021年度2736人、2022年度2,577人の参加がありました。参加者は500の町内会、またはは地区別で参加しています。
 多世代参加型の事業を「日常的に開催」がテーマです。また、町内会や地域住民と協働して実施することにより、アワードの活動が「居る・参加」のまちづくりを担っています。クラブサポーターが増えています。

3.取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント
 「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」を大切に
 『スポーツをする・みる』はもちろん、「できる」環境が生まれ、やがて遊びに変わります。時間をかけながら、子どもから高齢者まで、誰でも参加できる。誰でも参加できるから参加する。そんなきっかけが、行動のきっかけになっています。多世代・多世代であることが多世代を受け入れ、社会との繋がりを生み出すためのポイントです。
 『多世代・多世代』多世代という特徴を持ち、地域住民により主体的に運営される『総合型地域スポーツクラブ』は、全国に3,500クラブあります。そして、お寺や神社・公園等も、「どこにでも」あるように、スポーツ人口拡大の可能性を感じています。
 これからも、「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」を大切に、いつか「ある」ことができるように、まちづくりを進めていきたいと思います。

出所：総合型地域スポーツクラブに係る情報：静岡県スポーツ協会、神奈川県、愛知県のHP
 スポーツ実施による健康寿命延伸：笹川スポーツ財団 運動スポーツによる健康寿命延伸の効果に関する基礎資料
 スポーツ人口拡大に貢献する事例：スポーツ庁HP（Sport in Life）

7 アスリートやスポーツビジネス人材が県内スポーツ産業にて活躍するためには、人材の発掘や
8 育成を含めて機会を創出する必要がある。

⑦アスリートのセカンドキャリア支援

- スポーツ庁（スポーツキャリアコンソーシアム）：競技者として競技力の向上を追求しつつも、一人の人間としての成長を目指して幅広い支援が必要であることが定義。



- 福岡県：デュアルキャリア（競技活動と就業を両立させ、現役の内から二重のキャリア形成を行い、アスリート自身の自己成長・自己実現を目指す）の形成を目的とした事業を展開。



⑧スポーツビジネス人材の育成

- 三重県：三重県生涯スポーツ協会、三幸株式会社学校法人享栄学園（鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部）において、スポーツビジネス人材の育成に関する産学連携基本協定が締結
- 民間団体：スポーツビジネス人材を育成するためのプログラムの中で、プロスポーツチームを実際の課題として取り扱い、学習だけでなくスポーツ界におけるネットワークの構築機会を提供。



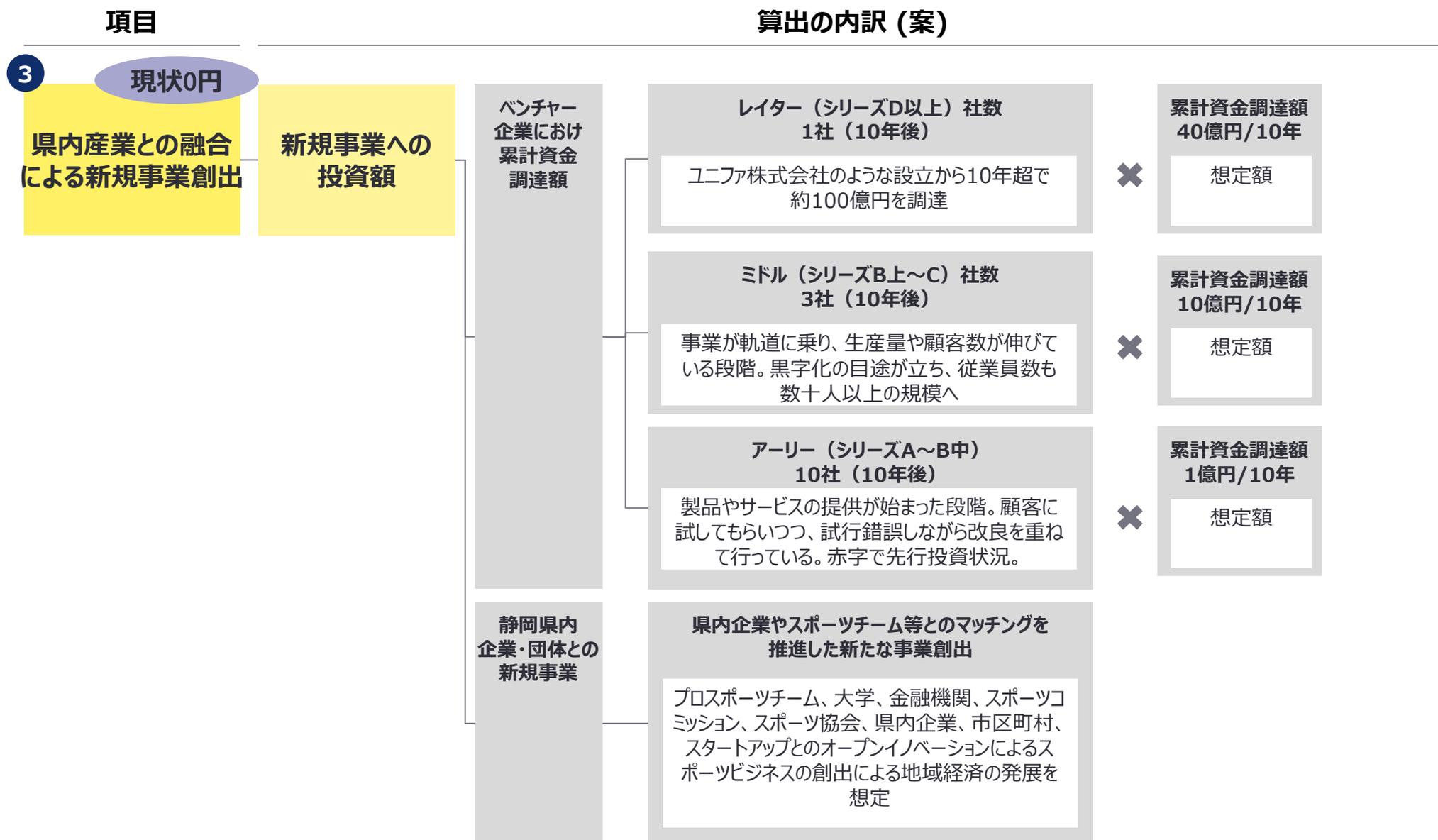
①プロスポーツチームとの連携 計算内訳

項目	算出の内訳
1 255億円 プロスポーツチームとの連携	
スタジアム観戦 約126.6億円	<p>県内スポーツクラブ観客数合計 約100万人</p> <p>ホーム試合数 県内プロスポーツクラブのうち、有料試合を開催しており、観客数の推計が可能な13チームの各試合数</p> <p>平均観客者数合計 県内プロスポーツクラブのうち、有料試合を開催しており、観客数の推計が可能な13チームの各平均観客数</p> <p>試合観戦費用 12,440円</p> <p>スタジアム観戦にかかる出費（チケット代、交通費、飲食費、グッズ費等） ※2023年スポーツマーケティング基礎調査（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）</p>
	<p>国内競技団体主催試合観客数合計 66,000人</p> <p>ホーム試合数 県内で開催される国内競技団体等主催試合のうち、有料試合（サッカー、バスケットボールを想定）の各競技試合数</p> <p>平均観客者数合計 県内で開催される国内競技団体等主催試合のうち、有料試合（サッカー、バスケットボールを想定）の各競技平均観客数</p> <p>試合観戦費用 12,440円</p> <p>スタジアム観戦にかかる出費（チケット代、交通費、飲食費、グッズ費等） ※2023年スポーツマーケティング基礎調査（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）</p>
プロスポーツクラブ その他収入 約124.5億円	<p>県内スポーツクラブのチケット収入以外の売上合計 約124.5億円</p> <p>県内スポーツクラブの売上合計のうち、チケット収入を含む売上の合計。売上内訳が公表されている4チームはチケット収入以外の合計、売上内訳が不明なチームは別途試算</p>
SNS価値 約4億円	<p>SNS総フォロワー数 約106万人</p> <p>県内スポーツクラブのFB、Instagram、X、Youtube、TikTokのフォロワー数合計（2024年11月時点）</p> <p>SNS価値を示す係数 372</p> <p>東京大学木村正明特任教授による「クラブ価値算出モデル」のうちSNSに関する価値を採用</p>

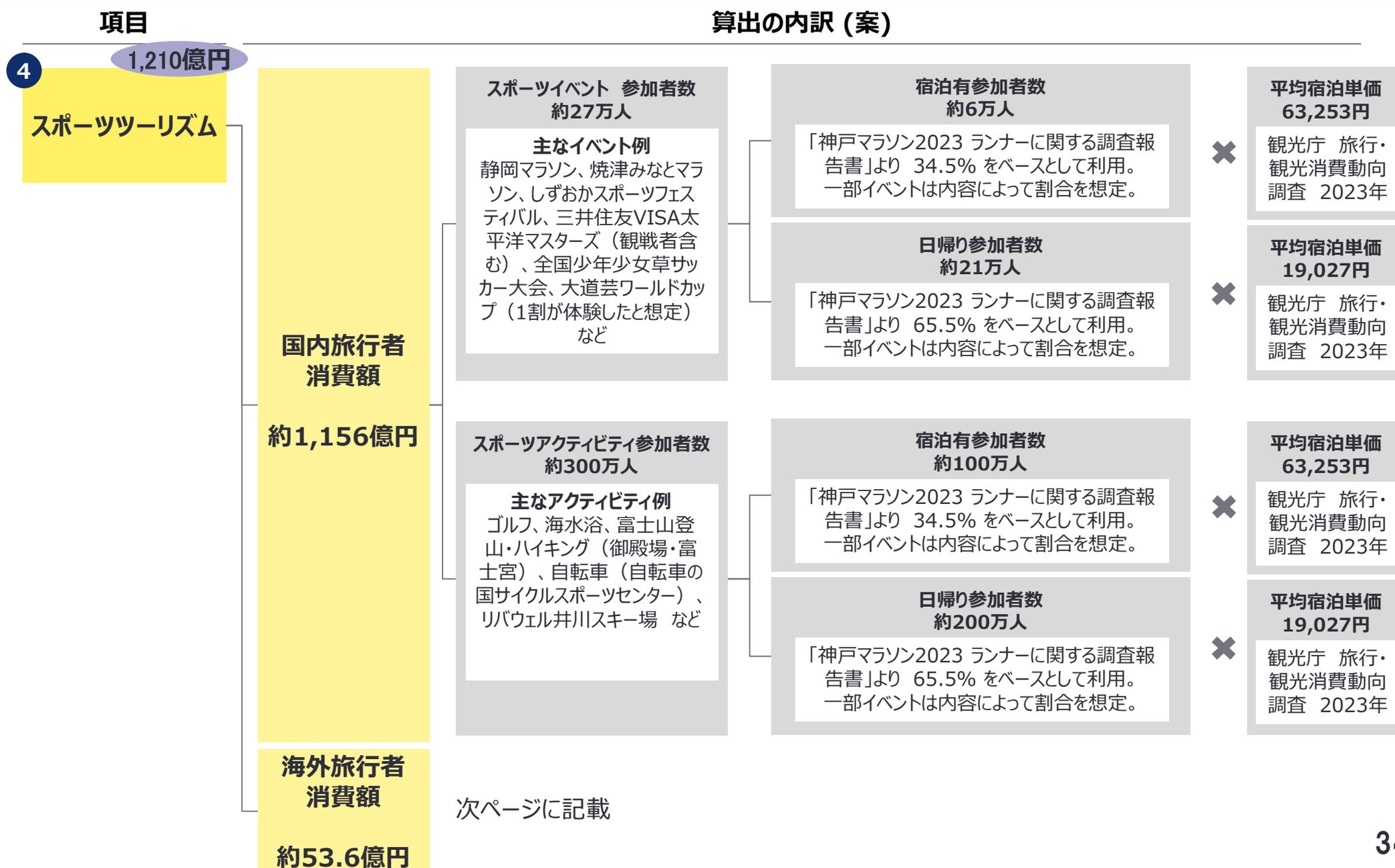
②スタジアム・アリーナ改革 計算内訳

項目	算出の内訳		
<p>2 407億円</p> <p>スタジアム・アリーナ改革</p>	<p>県内スポーツ施設の 建替え・新設費用</p> <p>約384.2億円</p>	<p>改修可能性施設 3施設</p> <p>今後10年間のうち改修可能性があるスタジアム・アリーナ件数（2028年時点で設立30年以上かつこれまで大規模改修を実施していない）</p>	<p>年間事業費</p> <p>概算事業費を建築設計等年数で除した金額。概算事業費、建築設計等年数は他事例をもとに設定</p>
		<p>新設予定施設数 3施設</p> <p>新設の計画が出ているスタジアム・アリーナ件数（報道ベースのものも含む）</p>	<p>年間事業費</p> <p>概算事業費を建築設計等年数で除した金額。概算事業費、建築設計等年数は各施設の事業計画等参照</p>
	<p>県内スポーツ施設の 売上</p> <p>約22.5億円</p>	<p>県内スタジアム・アリーナ スタジアム:10施設、アリーナ:5施設</p> <p>県内プロスポーツクラブがホームとして使用しているスタジアム・アリーナ</p>	<p>指定管理料 1.5億円</p> <p>「令和5年度スタジアム・アリーナ改革推進事業 スタジアム・アリーナにおける社会的価値活用の手引き」から一般的な料金として使用</p>

③県内産業との融合による新規事業創出 計算内訳



④スポーツツーリズム 計算内訳（1/2）



④スポーツツーリズム 計算内訳（2/2）

項目	算出の内訳（案）			
<p>4</p> <p>1,210億円</p> <p>スポーツツーリズム</p>				
<p>海外旅行者消費額</p> <p>約53.6億円</p>	<p>静岡県 外国人延べ宿泊者数 約100万人泊</p> <p>観光庁 宿泊旅行統計調査 2023年</p>	<p>主な目的 スポーツ・スポーツ観戦構成比 0.4%</p> <p>観光庁 インバウンド消費動向調査（旧訪日外国人消費動向調査）2023</p>	<p>1人1泊当たり旅行消費単価 14,076円</p> <p>観光庁 旅行・観光消費動向調査 2023年</p>	<p>スポーツ関連率 100%</p> <p>スポーツの関連比率</p>
		<p>主な目的 観光・レジャー 73.6%</p> <p>同上</p>	<p>1人1泊当たり旅行消費単価 25,246円</p> <p>同上</p>	<p>スポーツ関連率 25%</p> <p>サイクリングやハイキングを想定</p>
		<p>主な目的 上記以外 26%</p> <p>同上</p>	<p>1人1泊当たり旅行消費単価 平均25,682円</p> <p>同上</p>	<p>スポーツ関連率 1.72%</p> <p>GDPに占めるスポーツGDPの割合</p>
		<p>清水港のクルーズ船 人数 約5万人</p> <p>2019年 実績値</p>	<p>主な目的 観光・レジャー 99.2%</p> <p>同上</p>	<p>消費単価 平均30,447円</p> <p>観光庁 インバウンド消費動向調査より計算</p>

⑤地域スポーツの環境整備（部活動の地域移行・地域連携）、
⑥スポーツによるWell-Beingの向上 計算内訳

項目	算出の内訳 (案)		
5 61億円 地域スポーツの環境整備 <small>(部活動の地域移行・地域連携)</small>	部活動移行 約6.6億円	学校部活動の地域移行・連携人数 18,293人 部活動人数 中体連および高体連に登録している人数	部活動の地域移行・連携率 スポーツ庁の調査結果より、休日の中学部活動の地域連携・地域移行を実施する部活動の割合（全国値24%）を使用し、高校においては中学校の移行状況を踏まえた推計値を使用
	文教科体育施設 約51.9億円	対象施設数 中学校および高校における体育館、グラウンド、屋外プール数に統廃合や移行対象外の施設を加味	施設の改修・更新費用 体育館の改修または更新、グラウンドおよび屋外プールの改修に係る費用を積算
	県における部活動関連予算 約2.4億円	部活動指導関連事業 約1.8億円 部活動指導員の育成・配置（県立高等学校や市町立中学校）およびスポーツ人材の活用（しずおか型部活動推進事業および人材バンク管理運営）において措置されている予算額	中学校の持続可能な部活動の推進事業費 約0.6億円 市町や学校、関係者との連絡調整、県立高等中等部の体制整備、市町立中学校における実証事業において措置されている予算額
6 542億円 スポーツによるWell-Beingの向上	運動実施に関連する費用	県民人口 3,635,220人	スポーツ実施率 54.2% 過去3年間における成人以上のスポーツ実施率を使用
			スポーツ関連費用 27,500円 スポーツ庁「スポーツ実施状況等に関する世論調査」県民が年間にかかる費用を算出